

二〇二四年度B方式入学試験問題 一 時限目 国 語

二月七日

注意事項

- 一、試験開始の合図があるまで問題冊子を開かないこと。
- 二、監督者の指示に従い、別紙解答用紙の所定欄に氏名、受験番号を記入すること。さらに受験番号の下のマーク欄に受験番号をマークすること。
- 三、解答はすべて、解答用紙の解答欄にマークすること。
- 四、試験時間は六十分、問題は15ページ。

マーク記入上の注意

- (1) 解答欄にマークするときは、HBの黒鉛筆でつぎの正しい例のように濃く正確にぬりつぶすこと。解答は、該当の解答番号の解答欄にマークすること。例えば、解答番号 **10** の問に対して、
- (2) と解答する場合は

10
① ● ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩

のようにマークすること。

悪い例

5	4	3	2	1
① ● ③ ④ ⑤	① ④ ③ ④ ⑤	① ② ③ ④ ⑤	① ② ③ ④ ⑤	① ② ③ ④ ⑤
⑨ ⑩	⑨ ⑩	⑨ ⑩	⑨ ⑩	⑨ ⑩

- 印でかこむ。
- 中身をぬりつぶしていない。
- レ印をつける。
- 一印をつける。
- 一欄に二つ以上マークする。

このような記入をしてはいけない。

- (3) 一度記入したマークを訂正する場合は、消しゴムで完全に消してから記入しなおすこと。
- (4) 解答用紙を折りまげたり、破ったり、また汚したりしないこと。

1
① ● ④ ⑤
⑨ ⑩

のように×印をしても消したことになる。

第一問 左は、三木那由他『会話を哲学する コミュニケーションとマニピュレーション』の一節である（ただし、一部改変し

た）。これを読んで、後の問いに答えよ。

重要なのは、佐条くんが「いや だから先生のためとか… とか… …じゃ なくて お前と… … う うたったりするの
が… …」と言い淀み、その先を言わなかった結果、佐条くんは「佐条は草壁が好きだ」ということをいまだコミュニケーション
しない状態に留まっている、ということですよ。

ここで続きを言い、「お前とうたったりするのが好きなんだ」と言ったり、「お前とうたったりするのが楽しかったんだ」と
言ったりしたならば、すでに草壁くんの気持ちを聞いたうえでなされている会話であるということとを考慮すると、それだけで
「佐条は草壁が好きだ」という内容のコミュニケーション^⑦になっていたかもしれません。でも佐条くんは言わないわけです。

結果的に、コミュニケーション^⑦は未ス^Aイに終わったまま、そのコミュニケーション^Aを介してなされるはずだったマニピュレ
ーション、つまりは草壁くんが佐条くんの気持ちに気づくようにするという操作だけが、先んじて成功したことになります。だか
らこそ、佐条くんの側からすれば、わざわざ恥ずかしい気持ちを押しさえてまであえて明言する必要がないとも言えます。

そうすると、この状況で草壁くんが佐条くん^Bに続きを言わせたがっているのは、なによりもきちんとコミュニケーションをし
てほしい、マニピュレーションで満足せず、ちゃんとふたりのあいだの約束事のレベルに佐条くんの気持ちを持ち込んでほしい、
ということでしょう。

でも、なぜちゃんとコミュニケーション^Bにしてほしいと思うのでしょうか？ 気持ちを知らりたいというだけであれば、もうそ
れは実現しているのに。

ここで鍵になるのは、約束事というのはそれをしたひとのそれから先の行為を束縛するものである、という点ではないでしょ
うか？ 「束縛」というと少し怖い響きかもしれませんが、要するに、今後の行為をその約束事を参照したものにすると責
任が生じ、その責任を果たさなかったならば「約束事に反した」として非難を受けることになる、ということです。

コミュニケーションが具体的にどういった約束事を生じさせるのか、改めて見てみましょう。次のような会話があったとします。

X これから映画に行かない？

Y 明日テストなんだよね。

X そっか。じゃあまた今度にしよう。

Yは「明日テストなんだよね」と言ったことで、C〈〉ということをつたりのあいだの約束事にしようとしていると考えられます。これがいったいどういう約束事であるかということをつたりの面から考えてみましょう。

まずこのあとのYの行動について考えてみます。例えばこのやり取りがあったあとで、Yが特にテスト勉強をするでもなく遊んでいたり、別のひとと映画に行ったりしているのを見たら、Xはきつと非難するでしょうし、Yは非難されて仕方ないことをしたと言えそうです。

こうしたかたちで約束事に反する振る舞いは、会話においてしばしば非難されるためか、わざわざ特別な名前を用意され、独自のカテゴリーの悪トクだ①とされています。すなわち、「嘘」と呼ばれる行為です。

細かなことですが、私は「嘘はいけないことだから、話し手は自分の言ったことが嘘にならないように振る舞わないとならない」という当たり前のことを言っているのではありません。話は逆で、「話し手がコミュニケーションをした以上、話し手は自分のおこなったコミュニケーションに応じた責任を負うことになり、この責任に反するような振る舞いが『嘘』と呼ばれている」と言っているのです。言い換えると、あくまでコミュニケーションによってもたらされる約束事がまずあって、そうした約

東事から派^⑦セ^⑧イ的に表れてくる現象のひとつが嘘なのだと言っているわけです。これは、嘘という現象に対する私のコミュニケーション観からの説明なのです。

ともあれ、話し手はコミュニケーション後にこうした責任を引き受けることになり、約束事を破れば「嘘つき」と呼ばれることとなります。

でもそう考えると、コミュニケーションというのは、すればむやみに責任を引き受けることになる窮屈なもので、なんでそんなことをわざわざするのだろうか、と思われるかもしれませんが。この点に関わってくるのは、コミュニケーションが生み出す約束事は、話し手ひとりがおこなう約束ではなく、話し手と聞き手のあいだでの約束事である、ということです。つまり、コミュニケーションを受け入れたら、聞き手も聞き手で責任を負い、行動を制約させられることになるわけです。

先ほどのXとYの会話を思い出してください。Yが「明日テストなんだよね」と言ったあと、Xが「そっか、映画は無理っていうことね」と引き下がったとしましょう。その後、XがYの家に来て「さあ、映画に行こう」などと言い出したら、何か奇妙なことが起こっているように思えますよね。

これは、Yが遠回しに言ったせいでXに伝わらなかったというのとは別の状況です。ふたりのあいだではコミュニケーションが成立しているはずで、でも、それに反する振る舞いをXはしているわけです。つまり、Xは〈C〉という約束事を受け入れたにもかかわらず、Yがまるで本当はそんなことを思っていないかのように振る舞っているのです。

こうした場合、Xは「相手の言うことを真面目に受け取っていない」と非難されるに値することになっているでしょう。これは話し手ではなく聞き手の側に生じる責任です。

注意してほしいのは、これは〈Yは映画に行けない〉ということに反する振る舞いをするというのとは、少し別のことだということです。XはYの発言を真面目に受け取ったうえで、「いや、でもあなたの成績ならテストは余裕のはずだし、映画に行くくらい大丈夫じゃない？」と反論するかもしれませんが。この場合には、〈Yは映画に行けない〉ということに反する発言をXはしているわけですが、こうした反論をしたからといって、Yの発言を真面目に受け止めていないと責められることはないでしょう。

Yの発言によってコミュニケーションがなされたうえでも、実際問題としてYに映画に行く余裕があるかという点に関してはXとYのあいだに意見の齟齬そごがあってもいいのですが、少なくともYは自分が映画に行けないと思っているということは前提にしないと、議論のしようがありません。私がコミュニケーションによってもたらされる約束事Fと云っているのは、このレベルのことです。

長々と説明してしまったので、『同級生』における問題の場面を改めて取り上げておきましょう。

佐条 だ…れも…： 原先生のためにがんばったなんて言っていないだろ

草壁 ん!?

佐条 いや だから先生のためとか… とか…： …じゃ なくて お前と…： う うたったりするのが…

草壁 するのが…?

佐条 いや やっぱいい

草壁 エー その先が…〔重要なんじゃないですか〕

佐条 いやいや

(なかむらあすみこ
中村明日美子 『同級生』)

これまで語ってきたことから、ここで草壁くんが求めていることが見えてきたでしょうか？ 草壁くんは、(佐条は自分が草壁に好意を持っていると思っっている)ということ、ふたりのあいだの約束事にしたいたいです。

ひとつには、それによって互いの今後の行動を制約したい、というのもあるかもしれません。はっきりコミュニケーションしないで済ませたならば、a はコミュニケーションから生じる責任を負わないで済みます。すると、仮にこのあとで

佐条くんが草壁くんに好意をもっている（と思っている）とは思えないような振る舞いをしたとして、b が「俺のこと、好きだったんじゃないの？」などと問いただしたりしたとしても、「そんなこと、言っていないだろ」とでも言っておまかせすることができます。

もちろん、ふたりはあの場面で互いの気持ちを知っていたわけですから、そんなごまかしかたをするのは不誠実です。不誠実ではありませんが、それはあくまで道^①義的な話であって、この会話のなかではそうした不誠実を控えさせるようなものは生まれていません。

他方で、はっきりとしたコミュニケーションがない以上、c の側もまた、関連する責任を負わないで済んでいきます。というより、負えなくなってしまう可能性があります。もしコミュニケーションがなされたならば、d は（佐条は自分

が草壁に好意をもっていると思っ^②ている）という約束事に合わせてその後の言動を調整することになります。佐条くんが自分で（自分は草壁への好意をもっている）と思っ^③ている以上は本当に好意を持っているのだろう、と草壁くんが考えたならば、それは要するに、e から f への好意があるのを前提として自分の行為を選んでいくことになる、ということです。

思うに、このように責任を負うことは、単に負担になるというだけでなく、一種の「口実」をひとに与える面があります。相手は自分に好意をもっている（と少なくとも相手自身は思っている）のだから、好意を持たれているということ的前提としない^④と不誠実なわけで、だからプレゼントを贈ったり、デートに誘ったりしても構わないだろう、いや、むしろ積極的にそうしたことをすべきだ！ というように、自分がやりたいけれども、ただ「自分がそうしたい」というだけでやるには気が引けることを、約束事を口実にして堂々と実行できるわけです。

でも、コミュニケーションが起ころなかった場合はどうでしょう？ コミュニケーションに基づく責任というものの抜きにしてプレゼントを贈ったりデートに誘ったりせざるをえないのだから、これはもう、純粹に「自分がそうしたいから」という自分側の欲求だけの問題になってきます。

そういうときって、自分がひとりで空回りしているのではないかなどと不安になったりしますよね。もちろんコミュニケーションがなされたとしても、それによって生じる責任を曲解して空回りしたことをしてしまう可能性は常にあるわけですが、それでもきちんとした口実があるかどうかで、心理的な安心感としては大きな差が生じるでしょう。

どうでしょう？ 草壁くんが佐条くんにはつきりとしたコミュニケーションを求める心理として、それなりに的を射ていそうな説明になっているでしょうか？

もちろん、わざわざこんなふうにも考えなくても、現実には草壁くんと佐条くんがおこなっているようなコミュニケーションを私たちが自然とおこなっているわけで、その背後にある心理についても、なんとなくはわかっています、だからこそこうした場面を読むことでキョウ感したり、ときめいたりするのだと思います。その意味では説明なんてされずとも分かっていることではあるのですが、とはいえ、それを改めてきちんと言葉で説明するのは難しいことです。それをどうにかがんばってみると、いま述べたようになるのではないか、私たちが誰かにはつきりとしたコミュニケーションを求めるときにもこうした心理があるのではないか、と私は考えています。

あともうひとつ、コミュニケーションをはつきりとおこなうことには別の側面があるように思われます。それは、

H

という側面です。

佐条くんがはつきりと自分が草壁くんを持つ好意を語ったならば、佐条くんと草壁くんはそれによって、一定の責任を引き受けることになる。このことを詳細に説明してきました。とすると、もし仮に佐条くんがはつきりとコミュニケーションをおこなったなら、佐条くんにはその責任を引き受ける気がある、と言えるわけです。

普通に考えると、責任なんて引き受けなければ引き受けないほど楽なはずですが。でもここで佐条くんがコミュニケーションをおこなったなら、面倒なはずの責任を自分から進んで引き受けていることになります。それを放棄すれば「嘘つき」と呼ばれるかもしれないのに。

なぜわざわざそんなことをするのかというと、それは何よりも、「嘘つき」と言われることになるような振る舞いはしないと

いう確信や決意の表明なのでしょう。またその約束事を受け入れることで草壁くんとのあいだに責任による結びつきを持つことが、責任を回避するよりも大事なのだという気持ちの表明にもなるはずです。草壁くんからしたら、佐条くんにこのような表明をきちんとしてほしい、という心情もあったのかもしれませんが。

問1 傍線部Aについて、ここではどのような意味か。最も適切なものを次から選べ。

1

- ① 相手の気持ちを理解した話し手が聞き手との約束事をつくる営み
- ② コミュニケーションが欠かせない他者を統制しようとする営み
- ③ 発話を通じて話し手が聞き手の心理や行動を操ろうとする営み
- ④ あえてコミュニケーションをしないことで相手を困惑させる営み
- ⑤ 発話を介さないで他者に自分の気持ちを明言させようとする営み

問2 傍線部Bについて、筆者はその理由をどのように考えているか。最も適切なものを次から選べ。

2

- ① すでに分かっている心情でも、コミュニケーションによって互いの行動を統制する動機を得ることになるから
- ② 話し手が相手の気持ちを知るだけでコミュニケーションをしないのは、対等な当事者として不誠実だから
- ③ 相手の気持ちを約束事のレベルに持ち込むために、恥ずかしい思いをするような発言をさせる必要があるから
- ④ 相手の心情を知るだけでは満足できず、好意を持つ相手とのコミュニケーションによって束縛されたいから
- ⑤ コミュニケーションを介さないマニピュレーションによって相手の心情に気づかされるだけでは不満だから

問3 空欄Cに入るものとして、最も適切なものを次から選べ。

3

- ① YはYが映画には行けないと思っている
- ② YはXと別の日に映画に行きたいと思っている
- ③ YはYが本当は映画に行きたいと思っている
- ④ YはXと他の映画に行きたいと思っている
- ⑤ YはXとは映画に行きたくないと思っている

問4 傍線部Dの理由として、最も適切なものを次から選べ。

4

- ① Yは、勉強しないで遊んでいたり映画に行ったりしても、テストで良い点数をとれそうだから
- ② Yは、自分の振る舞いによって、Yに好意を持っているXが悲しむことを理解すべきだから
- ③ Yは、映画に誘ってきたXのことを仲間外れにして、別のひとと映画に行くのは不誠実だから
- ④ Yは、自分の発言にしたがって、映画に行く余裕があるような振る舞いをすべきではないから
- ⑤ Yは、Yと一緒に映画を見に行きたいと伝えたXの気持ちを、真面目に受け取っていないから

問5 傍線部Eとは、どういうことか。最も適切なものを次から選べ。

5

- ① 互いの今後の行動を制約しようと積極的に操作し合うということ
- ② 積極的にプレゼントを贈ったり、デートに誘ったりするということ
- ③ 約束事を破った相手を「嘘つき」と呼ぶ決意をするということ
- ④ 相手が約束事を破らないようにしっかりと束縛しておくということ
- ⑤ 自分の行った発言に反する言動を控えるようにするということ

問6 傍線部Fとは、どのようなものか。最も適切なものを次から選べ。

6

- ① 話し手と聞き手のそれぞれがコミュニケーションの内容に相応しい行動をする責任を負うもの
- ② 話し手に対して聞き手が相手の発言の内容に相応しい振る舞いをする責任を負うもの
- ③ 話し手と聞き手のそれぞれが話し手の発言の内容に相応しい行動をする責任を負うもの
- ④ 話し手と聞き手の意見が食い違ってもコミュニケーションを継続する責任を負うもの
- ⑤ 話し手が聞き手に対して自分の発言の内容に相応しい振る舞いをする責任を負うもの

問7 空欄aからfに入る人名の組み合わせとして、最も適切なものを次から選べ。

7

- ① a…佐条くん b…草壁くん c…草壁くん d…草壁くん e…佐条くん f…草壁くん
- ② a…草壁くん b…佐条くん c…佐条くん d…佐条くん e…草壁くん f…佐条くん
- ③ a…草壁くん b…草壁くん c…佐条くん d…草壁くん e…佐条くん f…草壁くん
- ④ a…草壁くん b…佐条くん c…佐条くん d…草壁くん e…佐条くん f…草壁くん
- ⑤ a…佐条くん b…草壁くん c…草壁くん d…佐条くん e…草壁くん f…佐条くん

問8 傍線部Gとは、どのような心理か。最も適切なものを次から選べ。

8

- ① 説明しなくても分かっていることでも齟齬なく説明したいという心理
- ② 約束事の責任を負うことで自分の言動の拠り所を作りたいという心理
- ③ 相手の本当の気持ちを知ることでお互いにときめきたいという心理
- ④ 「自分がそうしたい」という行動欲求を純粹に充足したいという心理
- ⑤ 約束事による責任を曲解して空回りしたことをさせたくないという心理

問9 空欄Hに入るものとして、最も適切なものを次から選べ。

9

- ① あえて相手に「嘘つき」と呼ばせる
- ② あえて責任を引き受ける姿を見せる
- ③ あえて分かっていることを伝達する
- ④ あえて相手の今後の言動を制約する
- ⑤ あえて自分の責任を相手に分配する

問10 筆者の見解と合致するものとして、最も適切なものを次から選べ。

10

- ① 嘘をつくことは道徳的に非難されることなので、言葉で伝えたことが嘘にならないように振る舞うべきである
- ② 草壁くんも佐条くんもマニピュレーションをしているが、本当はコミュニケーションをしたいと思いますと思っている
- ③ コミュニケーションを通して約束事を作ることによって、自分のしたいことをする際の理由を作ることができる
- ④ コミュニケーションが生み出す約束事は話し手の行動を制約するものであり、聞き手はそれを信頼すれば足りる
- ⑤ 佐条くんは、草壁くんに責任を引き受ける決意を表明させるために、マニピュレーションをしようとしている

問11 文中の二重傍線部⑦から⑩のカタカナ部分と同じ漢字を用いるものを次から選べ。

11 ⑦ 未ス_イ

① 計画をス_イ進_スする
② 我田引ス_イ
③ 重要部分を抜ス_イする

④ 任務をス_イ行_スする
⑤ 昏ス_イ状態に陥_ル

12 ① 悪トク

① トク実な人柄
② 役トクにありつく
③ 証拠を隠トクする

④ トク製の茶器
⑤ トク望が高い

13 ① 派セ_イ

① セ_イ硬な文章
② 怒りを自セ_イする
③ 人材を育セ_イする

④ 天セ_イ明朗な人
⑤ 優セ_イな陣営

14 ① 道ギ

① 退屈な講ギ
② キレイ事を言うギ善者
③ ギ札的な手紙

④ 対策を討ギする
⑤ 便ギをはかる

15 ① キヨウ感

① 団体キヨウ技
② キヨウ調性に欠ける
③ 酔キヨウな人

④ 公キヨウの施設
⑤ 食料をキヨウ給する

第二問 左は、『伊勢物語』第四〇段である（ただし、一部改変した）。これを読んで、後の問いに答えよ。

むかし、若き男、けしうはあらぬ女を思ひけり。さかしらする親ありて、思ひもぞつくとて、この女をほかへ追ひやらむとす。さこそいへ、まだ追ひやらす。人の子なれば、まだ心いきほひなかりければ、とどむるいきほひなし。女もいやしければ、すまふ力なし。さる間に、思ひはいやまさりにまさる。にはかに、親、この女を追ひうつ。男、血の涙を流せども、とどむるよしなし。率^みていでていぬ^D。男、泣く泣くよめる。

E いでていなばたれか別れのかたからむありしにまさる今日^{けふ}は悲しも

とよみて絶え^た入りにけり。親あわてにけり。なほ思ひてこそいひ G、いとかくしもあらじと思ふに、真実に絶え入りにければ、まどひて願立^{ぐわん}てけり。今日のいりあひばかりに絶え入りて、またの日の戌^{いぬ}の時ばかりになむ、からうじていきいでたりける。むかしの若人^{わかうと}は、さる好ける物思ひをなむしける。今^Jのおきな、まさにしなむや。

〔注〕 1 心いきほひ——心中の気力

2 いりあひ——日没

問1 傍線部Aの現代語訳として、最も適切なものを次から選べ。

16

- ① 異様な雰囲気
- ② まったくお金がない
- ③ 性格がたいそう悪い
- ④ 身分が高い
- ⑤ 器量が悪くはない

問2 傍線部Bの現代語訳として、最も適切なものを次から選べ。

17

① 意地の悪いことばかり言う

② 利口ぶってお節介をする

③ いかにも風流ぶった

④ ひねくれた嘘をつく

⑤ 欲深くてみつもまない

問3 傍線部Cの主格は誰か。最も適切なものを次から選べ。

18

① 女

② 親

③ 男

④ おきな

⑤ 男女

問4 傍線部Dの活用の種類として、最も適切なものを次から選べ。

19

① ナ行変格活用

② ナ行四段活用

③ ナ行上一段活用

④ ナ行下二段活用

⑤ ナ行下一段活用

問5 傍線部Eはどういうことか。最も適切なものを次から選べ。

20

- ① 女が出て行ってしまったら、誰もが男女の別れの難しさを嘆くだろう
- ② 親が子を置いて出て行くことで、もっとも別れを悲しく思うのは誰だろうか
- ③ 私が出て行ったところで、誰が別れがたく思ってくれるだろう、いや誰も思わない
- ④ 女が自ら出ていったのならば、誰もこんなに別れがたいとは思わないだろう
- ⑤ たとえ私が出て行くと言ったとしても、誰かが引き留めてくれるだろう

問6 傍線部Fの現代語訳として、最も適切なものを次から選べ。

21

- ① なるほど
- ② それでもやはり
- ③ 一般に
- ④ ひよっとしたら
- ⑤ 少しでも

問7 空欄Gに入る言葉として、最も適切なものを次から選べ。

22

- ① き
- ② ける
- ③ けり
- ④ ぬ
- ⑤ しか

問8 傍線部Hの文法的説明として、最も適切なものを次から選べ。

23

- ① ラ行変格活用 of 動詞「あり」 of 未然形 + 打消推量 of 助動詞「じ」 of 終止形
- ② ラ行四段活用 of 動詞「ある」 of 未然形 + 打消推量 of 助動詞「ず」 of 連用形
- ③ ラ行変格活用 of 動詞「あり」 of 連用形 + 打消意志 of 助動詞「じ」 of 終止形
- ④ ラ行四段活用 of 動詞「ある」 of 連用形 + 打消 of 助動詞「ず」 of 連用形
- ⑤ ラ行変格活用 of 動詞「あり」 of 未然形 + 打消 of 助動詞「ず」 of 連用形

問9 傍線部Iの時刻として、最も適切なものを次から選べ。

24

- ① 午後六時ごろ
- ② 午後八時ごろ
- ③ 午後十時ごろ
- ④ 午前零時ごろ
- ⑤ 午前二時ごろ

問10 傍線部Jはどうか。最も適切なものを次から選べ。なお、「しなむや」は「為しなんや」 of 意でとることとする。

25

- ① 今の世の老人は、むかし若者だった頃は親の言うことを聞いて恋をあきらめたものだった
- ② 今の世の老人も、むかし若者だった頃と同じ様に男女の恋の悩みを抱えながら生きている
- ③ 今の世の老人も、昔の若者のように、いちど息絶えて再び生き返ることができる
- ④ 今の世の老人に、昔の若者のような一途な恋の悩みをもつことはもはやできない
- ⑤ 一つの世も若者が好色な悩みにさいなまれるのは、昔から老人がそう仕向けてきたからだ